

# 例会報告 Rotary



2022-2023年度  
RIテーマ

第2702回例会  
令和5年5月12日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988  
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 垣内 秀文
- 幹事 大村 貴之
- 会報委員長 中島 一成

イマジン お祝い  
ロータリー 会報・雑誌・広報委員会

## <会長の時間>

かつての日本の家電業界は、高度な技術力を持ち、世界トップクラスと言われていました。しかし、メイドインジャパンが重宝された時代はバブル崩壊で1995年頃に終焉を迎え、90年代以降の大量リストラで溢れた、国内トップクラスの技術者が韓国、中国を中心にアジアのメーカーに流出した事で日本の大手電機メーカーは落ちぶれてしまった印象は拭えません。2012年にはソニー、パナソニック、シャープが数千億円に及ぶ巨額損失を計上し、中でもテレビ事業の経営不振に陥った、シャープが2016年に台湾の鴻海精密に買収された事は、日本国内に大きな衝撃を与えました。

そもそもですが、日本の家電メーカーは、高度経済成長期、三種の神器と呼ばれるテレビ、冷蔵庫、洗濯機で急成長を遂げました。特にテレビはオリンピック等大きなイベントがある度に買換える人も多く、日本の産業の大きな要でもありました。そこに押し寄せたのが2000年代から急成長したIT革命、テレビはパソコンやスマートフォンにとって変わられ、情報を得るのもインターネットが中心という時代になりました。

アップル社やマイクロソフト社など、アメリカの企業がソフトウェアの面で世界を牽引、iPhoneが普及し世界のネット環境は一気に進化を遂げました。しかし日本は独自の路線に走ります、アメリカの情報通信企業がグローバル市場をターゲットにしているのに対し、日本では仕様が世界基準ではなく、日本人のみが使い易いものにシフトしていったため、IT産業のガラパゴス現象が起り、日本は今でも現在進行形でその道を辿っているといえます。

皆さんご存知の様に、ガラパゴス化とは日本のビジネス用語のひとつで、孤立した環境(日本市場)で製品やサービスが著しく進行することで、外部(外国)の製品との互換性を失い孤立して取り残される事だけではなく、適応性(汎用性)と生存能力(低価格)の高い製品や技術が外部から導入されると、最終的に淘汰され危険に陥るといふ、進化論におけるガラパゴス諸島の生態系になぞらえた警句であります。

日本の家電業界はこのような現状ですが...日本のRotaryはどうか。『日本のRotaryはガラパゴス化したか』と2019年度のRotaryの友に載った記事が、少し強い言葉を使った事もあり、特にベテラン会員の方々から相当の反発を買ったのが2840地区パストガバナー前橋RCの本田博己さんで、それを紹介すると『従来語られてきた日本の「職業奉仕」論と、国際ロータリーが推奨する「職業奉仕」は全く内容が異なる。「職業奉仕」という言葉で、世界のロータリアンは奉仕部門の一つとしての職業奉仕の活動を語り、一方日本のロータリアンは「奉仕の理念」の職業への適用や自分自身の職業観を語っている。日本のロータリーも「職業奉仕」という言葉で「奉仕の理念」や自分の職業観を語ることを一旦止めてみましょう。そしてクラブの活動の爲の枠組みである「五大奉仕部門」の第2部門である「職業奉仕部門」の活動だけに「職業奉仕」という言葉を使おう。しかし、これは日本の伝統的な職業奉仕論の本旨を否定している訳ではない。「職業奉仕」という言葉ではなく、世界共通の「奉仕の理念・奉仕の理想」という言葉で、Rotaryの理念についての議論を深めよう、と言うのが提案の真意です。何故ならRotaryの目的

は奉仕の理念を奨励し、これを育むことであり「奉仕の理念」がロータリーの根幹である』と述べられていました。

現在、日本のRotaryと国際ロータリーとの間には残念ながら微妙な現状があると言われおり、世界全体のRotary活動の中で、大きな潮流や変化に取り残されつつあるようです。私の記憶が、昨年の地区研修協議会の基調講演でも不満めいたことを述べてられていたお方がおられたような気もしますが...で！我々は一体、何をどうすればいいの?...どうしても胸に落ちません...ただ困惑するだけで、私如きにはどうすることも出来ません...私のように分からないと考えるロータリアンが、ほぼ半数を占めるのが現状のようです。

国際ロータリーの方向性や現状に対し、このまま意識のギャップが拡大していけば、日本が世界の中で更に孤立していく事も懸念されます。少し極端な言い方ですが、戦略計画に象徴される国際ロータリーの方向性に背を向けて日本独自の路線を歩むか、それとも国際ロータリーの世界ネットワークの重要な一員として、理念と活動の両面でリーダーシップを発揮するようになるのか、日本のRotaryは二つの道どちらに向かうのか、今大きな岐路に立たされているのだと言えます。

## <幹事報告>

- ◎ロータリー  
米山記念奨学会より  
・第1回米山功労者  
感謝状  
鴻野 幸泰 さんへ



- ◎ガバナーエレクトより  
・2023年地区研修・協議会 修了証書  
下屋 勝比古 会長エレクトへ
- ◎R I 日本事務局より  
・5月のロータリーレートについて 1ドル136円(4月133円)  
・青少年奉仕月間リソースのご案内、財団室NEWS 2023年5月号
- ◎飛騨高山国際協会より  
・令和5年度飛騨高山国際協会通常総会の議決結果について

## <例会変更>

- 高山 … 6月1日(木)は、新緑家族例会のため  
18:30~ 洲さきへ 変更
- 6月29日(月)は、規定休会

## <受贈誌>

高山中央RC(会報)、下呂RC(会報)、地区ロータリー財団学友会(学友だより第11号)、(財)比国育英会バギオ基金(バギオだよりvol.96)、台北市松年福祉会(玉蘭荘だより)、高山市社会福祉協議会(第5次高山市地域福祉活動計画書)、(社)高山市文化協会(広報高山の文化No244)

# 例会報告

## ＜出席報告＞

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
25名	—	25名	36名	69.44%

## ＜今月のお祝い＞

### ◎会員誕生日

塚本 直人

5. 7

### ◎夫人誕生日

(当日ご自宅へ花束をお届け)

塚本 直人 智子さん

5. 13



### ◎結婚記念日 (一週間ほど前にご自宅へグリーンホテル商品券を郵送)

折茂 謙一 S38. 5. 6、井辺 一章 S52. 5. 12  
 斎藤 章 S56. 5. 25、堺 和信 S61. 5. 18、  
 新井 典仁 H14. 5. 25、松田 康弘 H 7. 5. 14、  
 高井 道子 S62. 5. 25

### ◎出席表彰

伊藤 松寿 37年 (当日欠席)

### ◎在籍周年記念表彰

なし

### ◎3ヶ月表彰

・伊藤 松寿 ・大村 貴之 ・鴻野 幸泰 ・堺 和信  
 ・塚本 直人 ・水梨 弘基

## ＜本日のプログラム＞

### 雑誌・広報・会報委員会

委員長 中島 一成

担当例会の講師として、岐阜新聞社岐阜放送飛騨高山総局長兼編集部長の森嶋哲也様をお迎えしました。森嶋総局長は岐阜市のご出身で、2020年7月から編集部長として高山で勤務され、21年1月から飛騨高山総局長を務められています。また、奥様は高山市のご出身とのことですが、現在奥様は岐阜の方にお住まいで、森嶋様は高山で単身赴任中とのことです。森嶋様にはメディア関係者として高山で勤務する中で感じられたことについてお話をさせていただきます。どうぞよろしくお話ししたいと思います。



「私から見た高山」

岐阜新聞社岐阜放送飛騨高山総局長兼編集部長 森嶋 哲也 様

皆様こんにちは。日頃から岐阜新聞岐阜放送お世話になっておりましてありがとうございます。先ほどご紹介いただきましたように、私から見た高山というテーマでお話をさせていただきたいと思っております。

先ほどお話ありましたように、私、まさにコロナの真っ最中の2020年の7月、編集部長という肩書きでこちらに赴任させていただきました。これで3年が経過いたしました。実は私の初任地は高山でして、昭和63年に入社致しまして、一年ほど本社の方で修行させていただきました後、最初に赴任させていただいたのはこちらの高山で、家内もこちらからもらっております。非常に思い出深い土地というか、2度目来させていただいて非常にありがたいと思います。一回目の辞令は、1989年の1月1日付でした。正月なのでまあゆっくり来ればよいよっていう事でかなりゆっくりして、7日に赴任して来て、朝起きたら昭和天皇が崩御をされておりました。私が高山で一番最初に取材が昭和天皇崩御の報に接した高山の町の様子でした。古い町並みに行くと写真を撮ろうと思ったら本当に閑散として、当時ホテルのキャンセルとかもあって、自粛ムードでなかなか観光という感じではありませんでした。岐阜県1の観光地である高山が閑散としているというのがショッキングだったという事で、その私の撮った写真が結構大きく岐阜新聞の県内版に載ったというのが非常に記憶に残っております。そして2度目、先ほど言いましたようにコロナの真っ最中で赴任しました。ここは高山かと思う位、みなさんもご記憶にあるんでしょうけど、古い町並み等観光地がもう軒並みガラガラでして、奇しくも30年後にまた同じように元気のない高山の街を取材することになりました。なんか私は高山にとって疫病神なのかと思った程です。

現在コロナも大分落ち着き5類になりまして、観光客の方がいっぱい増えて来まして、欧米の方なんか非常に街中で見かけるようになりました。ああ、これがインバウンドかっていうのを改めて実感している次第です。私ども4月3日に一之宮の水無神社で生きびな祭というお祭りをさせていただいています。そこで写真撮ってもらって、写真コンテストということで岐阜新聞の名田町の総局の一階で展示していたんですけどもなかなかお客さんが来なかったものですから、観光客の方捕まえて入ってもらって記事を書こうと思いました。しかし、通る方通る方みな欧米の方で、英語ちゃんとしゃべればよいんですけど、私英語は不慣れなものですから、ちょっと二の足を踏みまして、9割方が欧米の方だった感覚でした。ようやく日本語が聞こえてきて若い3人の女性、富山県の方らしいんですけども、入ってもらって快く撮影させてもらいました。30年前は今ほど全然、プライバシーと言いますか個人情報にやかましくなくて、一番現在の違いを痛感するのは、最初の赴任時、小学校なんか取材行きますと私が来たときは、子供たちがみんな「おっちゃん僕撮って」みたいにしてカメラに寄ってくるんですけど、今は、逆に4月の年度初めに学校から親さんにこの子は写真を撮って新聞等に載っていいの、って調査をされるようで、まず、小学校に行くと一番にしなきゃいけないことが「掲載NGのお子さんほどどちらでしょうか？」って先生に聞く事です。すると「あの赤い服着た女の子とこちらの男の子です」みたいなこと言われるんですが、イベント等の取材ではお子さんたち動き回るものですから、なかなかそのお子さんを外して写真を撮るのが非常に難しい、新聞記者の住みづらい世の中になっているかなという気がします。昔は、記事中に、だれだれ君が『こうやって楽しかったよ』って書いていたみたいなコメントも載せるんです。子供にインタビューして名前を載せたりしていたんですけど、今はまず親さんに許可を取って下さい

## 例会報告

てことで、先生が職員室走って電話して「OK取れましたので載せてください」って流れです。学校にまで迷惑がかかりますので、もう最近はできるだけ『生徒たちはこう話した』みたいな個人名を載せない記事にするという変化があります。

他に30年の隔たりと言いますと、皆さんも当然痛感されていると思いますが、一番道路網が変わりました。私若い頃岐阜の家に帰るときには、せせらぎ街道が一番早いルートだったんですけども、皆さんご存知のように、平成の始めは道路状態が悪くて怖い道で、特に冬なんか私も雪道に慣れていなくて、落ちちゃうんじゃないかみたいな、本当に危ない思いをしました。今東海北陸・東海環状道延伸していますので、私が今住んでいる所が岐阜市の端っことで、山県のインターのすぐ近く、十数分位でインターに乗れる距離です。夜間ですと一時間半から一時間45分位で来れてしまいます。遠いという感覚も全然なくて33年も経つと距離感が全く違うんだなと痛感しております。

新聞記者として取材していますと、土地柄によって当然シェア率もあるんでしょうけど、だいぶ対応が違ってまして、残念ながら私どもあんまり売れていなくて中日さんの方が圧倒的に強いんですけども、それでも高山ではどこへ行っても快く取材を受けていただいて、岐阜新聞さんよろしくお願ひしますという感じで、非常に我々は住みやすい、素晴らしい町で大変喜んでます。どこと申し上げると差し障りがあるかもしれないですけど、私勤務経験がなく聞いた話しでしかないですが、東濃の方はやっぱり名古屋を見てらっしゃるのか、やっぱり「岐阜新聞ってどこの新聞？」みたいな、かなり取材しづらいついていう話を聞いています。同じように郡上市、私は4年位支局に勤務したんですけども、郡上も岐阜新聞が本当に売れなくて記者は一人ですけど、中日新聞は八幡と白鳥に2人記者がいるぐらいの力を入れている、昔社長さんが出た、すごい強い所です。取材に行くと「岐阜新聞さんって郡上の話題を岐阜市の人にお知らせする新聞ですよ」とかって言われて、非常に悔しいとか悲しい思いをしたことがあります。高山は全然そんなことなく、シェア率低くてもお付き合いしていただいて、非常にありがたいと思っております。確かにシェア率もあるかと思いますが、先程名古屋の方に向いているという話をしましたが、岐阜市もどちらかというとずっと昔から名古屋経済圏というふうにならわれております。ちょっと前に深夜、と言っても11時ぐらいですか『最高のオバハン』という大地真央さんが主役のドラマ放送があって、第二部は下呂とか飛騨市が舞台になりました。そこで「岐阜は名古屋の属国や」と声高々に毎週のように再三言われて、でも残念ながら岐阜市出身で岐阜育ちの私もおっしやる通りです、って言うしかない感じですけど、高山はそういう経済圏にも支配されることもなく、文化的にも歴史的にも風土的にも独自のアイデンティティを育てて、なかなかこの岐阜県内における稀有な、素晴らしい土地だなと思っております。

個人的に興味のある話で大変申し訳ないですが、私は大変歴史、特に戦国時代が好きなんですが、戦国時代を好きなのは、岐阜を舞台にした『国盗り物語』と言う大河ドラマが昭和48年に放映されて、そこで毎週のように「美濃を制するものは天下を制する」と言っていて、岐阜出身の子供時分の私としては非常に心躍らせて見てまして戦国時代好きになりました。最初は斎藤道三が主役で、その後娘婿である織田信長が主役というストーリーなんですけども、司馬遼太郎さんの原作の影響で、一介の油売りの斎藤道三一代で国盗りに至る、非常にロマンのある話だなと思ったんですけども、最近の研究では親子二代であの国盗りが成ったというのが定説に

なっています。岐阜の方というか東海地方の天下に係る話は、資料が豊富にあり、新説がどんどん出て、今の大河ドラマ『どうする？家康』でも結構新説が採られています。まず一発目の桶狭間の戦い、私桶狭間と言うと、駿河の今川義元が天下統一の第一歩で京を目指すに際して、小国の織田信長の奇襲にやられちゃったと認識していましたが、実は天下統一を目指して上洛するっていう資料は一つも無いらしくて、ただの領地争いで、しかも織田信長が誘い込んで策略的に今川義元を倒したみたいな説が出ておまして、『どうする？家康』でもその観点で創られていて面白いなあと思いました。信長の妹の市が家康と恋仲だったみたいな、そういう小説も実際あるそうなんですけども、ちょっとやりすぎかなっていう気がしながら、なかなかユニークだと毎週楽しみで見ながら、なぜ定説みたいなものがずっと流布しているかっていうのを考えますと、その時代のちょっと後に軍記もの、読みものみたいなもので、面白おかしく描かれたものっていうのが大体元になっていて、それが話的にストーリーとして面白いもんですから踏襲されている。例えば、浅井に裏切られた織田信長、それを妹の市が小豆の袋の両端を結んで、挟まれて逃げられないみたいに教えた、それも創作らしいんですが、色々面白いエピソードが満載で、それをもとに小説が書かれて、テレビドラマが作られ、定説になってしまっている。しかし資料にあたるとうどんどんひっくり返ってるっていう状況ですが、それを違う部分で考えますと、今の時代SNSが発達してますので、面白可笑しく書かれたことがいかにも本当になって自殺に追い込まれる方が出たり、大変な時代だと思います。我々もマスコミの一員として、もう何百年前から面白おかしく書かれてそれが嘘なのかどうもわからないまま真実のように伝わっているっていう、その傾向は自戒しなきゃいけないと、歴史を学ぶ上で教訓にしています。

もうちょっと歴史の話にお付き合い願ひたいんですけど、岐阜はやっぱり織田信長がいて、非常に研究もされているし、資料もいっぱい、今どんどん新説っていうのが出てきているんですけど、飛騨の方は資料も少なく、断片的にしかななくて、戦国時代なかなか謎だという所が逆に面白くて、岐阜新聞の紙面で飛騨の戦国時代を探るみたいな連載記事を書かせて頂いて、そこで取材したり、いろんな専門の研究者の方にお話を聞いたりして、取材を進めています。高山の歴史は、皆さんご存知のように高山の基礎をつくった金森長近さんがいるんですけど、その前にこの飛騨を戦国時代に最初に統一したのは三木自綱ってされていて、なかなか新しい資料見つからない中、その断片的な資料で新しい解釈が結構出てきているようで、お爺ちゃんの直頼っていう人、その人が実は事実上飛騨を統一していたんだということが最近わかってきたらしくて、非常に面白いなと思います。この方武力で制圧するんじゃなくて、例えば神岡の江馬氏と婚姻関係を結ぶとか色々策略して、ある研究者の方が『緩やかな連邦制』という言い方をされたやり方で統一している。その子供の良頼については、父親の様に徳で治めるみたいな感じではなく、朝廷の位を得ることによって、自分に箔をつけて飛騨を抑えようとした。その子の先程言いました三木自綱は武力で制圧して、今までお爺ちゃんが仲良くしてきた飛騨地方の有力武将達を全部騙して殺したりして残忍な男である、この残忍かどうかっていうのは軍記もの話なので、定かではないんですけども、なかなか親子三代面白いかと思います。金森長近が来年生誕500年で、高山でも記念イベントがあるという話を聞いていますし、長近さんの方が高山ではご存知の方多くて人気があると思いますが、個人としては三木三代が非常に面白いんで、これ大河ドラマでやってもらえるとありがたいなと思っております。

## 例会報告

先ほど私、高山に赴任させていただいて三年経過しましたという話をしたんですけども、実はおととい本社からお前異動だぞって電話がありました。高山総局で一番のメインイベントは夏の花火大会で今準備始めた所です、こんな時期にまあ僕はいいけども、後の人大変だと思って、非常に戸惑っています。新しく異動する先がデジタル報道部です、皆さんご存知のように、もともと中日さんと比べて紙売れていない新聞社なんですけども、紙の媒体自体も限界に来てまして、どんどん読者層も減ってるし、ウェブの方のコンテンツに力を入れるということで、私、実は記者人生、ほぼアマチュアスポーツを中心に担当しておりましたので、そちらの方のウェブでコンテンツが薄いのでテコ入れしてくれという異動です。という事でついとは言っては何ですが、そちらの方の話、高校野球で今年の夏、岐阜県はどうなんだということをお話させていただきます。

選抜には大垣日大が出場致しました。昨年秋の大会、準々決勝で大垣日大と県岐商が対戦して、大垣日大がすごいバッティングで打ち込んで、県岐商を打ちのめした試合でした。この春の大会、選抜を経て自信がついたという感じで大垣日大の打線が奮って、凄いで打球がどんどん飛び出して準決勝までもう圧倒的な強さを見せていました。僕もその時におりまして、阪口監督にもうだいたい他のチームと差がつかましたね、って話をしていたんですけども、春の大会で県岐商と決勝で当たりまして、延長 11 回のタイブレークで県岐商がサヨナラ勝ちしました。強打者を抑えるのにインコース攻めが有効らしくて、インコースをズバズバと、秋にはなかった打者の攻め方をして、県岐商 3 人で完封したんですけども、先発して五回を零点に押さえた今井君という子が日枝中出身の選手です。サヨナラ打の三塚君は丹生川中の子で、高山の 2 人が投打のヒーローになって春の大会優勝しました。この両チーム、20 日から静岡で東海大会がありますが、どんな試合をするかなと楽しみに思っています。夏はこの二校が中心になっていくとは思いますが、実は益田清風高校も今年シート権を取りまして、高山西高校も秋にベスト 8 になって、飛騨の高校も頑張っております。皆さんにとっては飛騨から甲子園って合言葉になっているかと思います。だいたい根尾君のお兄さんが決勝まで行って、あと一歩という所もありましたが、その辺も注目して見ていきたいと思えます。

とりとめない話をいたしましたけれども、コロナも 5 類になりましたが、コロナが終わっても以前の状況には完全に戻らないというのは多くの方が言っています。しかし、この魅力ある土地、高山がコロナの後にどんな風に発展していくかと楽しみにしていたところで異動になり非常に残念ですけども、異動しましても、高山の動向に注目して、また取材も続けたいなと思っています。今日はありがとうございました。

### <ニコニコボックス>

#### ●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

岐阜新聞社岐阜放送飛騨高山総局長兼編集部長 森嶋 哲也 様、お忙しい中お越し頂きありがとうございます。卓話楽しみにしています。よろしく願います。

#### ●中島 一成さん

本日は会報・雑誌・広報委員会の担当例会卓話講師とし岐阜新聞社岐阜放送ひだ高山総局長兼編集部長の森嶋 哲也 様をお迎えしました。どうぞよろしく願います。

#### ●挾土 貞吉さん

先月 23 日(日曜日)、世界生活文化センターホールでの、リハビリ治療中の小生ピアノ伴奏による「めでた」(サンタルチヤ)の発声練習が了解もなく、クラブメンバーの SNS による拡散があった様で恥ずかしい思いをしています。これぞ AI (chatGPT)? で、作成されたようで個人情報の倫理違反であり S 弁護士を通して訴えるべきか思案中です。出した方は、どこかの宴席で銚子一本注ぎに来てください。

#### ●岡田 賛三さん、平 義孝さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、

#### 堺 和信さん、塚本 直人さん、田中 晶洋さん、田邊 淳さん

新型コロナ感染症が 5 類に移行し、多くの規制が撤廃されました。2020 年 3 月 11 日に、WHO がパンデミック宣言してから約 3 年間、医療機関を始めワクチンの開発など大変な闘いでした。しかし、3 年間でテレワークをはじめ社会生活は大きく変わり、また日本ではデジタル化の遅れやワクチン開発の研究費の少なさなど多くの問題点が浮き彫りになりました。これからは、コロナウイルスを撲滅することは難しいので、人的被害を最小化し共生していかなければならないと思います。この転換点を契機に、世界が持続可能な社会へ変わっていくことを期待しニコニコへ。